

経済研修所運営に必要な経費 ロジックモデル

事業の目的：内閣府及び他省庁の職員を対象とした経済研修等の実施により、経済・社会活動の調査分析など職務上必要とされる基礎的な知識や技能の習得・向上を図るとともに、経済の重要問題についての分析能力を養う。

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム	インパクト
予算額 【29年度】10百万円 【28年度】12百万円	効果的な研修プログラムの企画、研修計画の作成 受講者アンケート結果等に基づき、前年度の実施結果の評価を行い、研修プログラムの見直しを行うとともに、新たなニーズへの対応を試行する。	調査分析等に必要研修プログラム(計量経済分析研修、経済社会関連統計研修、経済分析等に役立つソフトウェア技能研修等)の提供	受講者の職務上必要とされる知識の習得、技能の向上	政策担当者の企画立案能力や調査分析能力の向上を図ることにより、効果的・効率的な経済政策等を実施することに寄与する。
根拠法令:内閣府設置法等	研修計画(年度毎)	研修コース数 年間・累積受講者数	講義内容に対する総合評価(5段階中上位2段階評価をつけた受講者の割合)、技能研修における習熟度テスト受験者平均点数、各コースの出席率 (以下を試行) 計量経済分析研修のチェックテスト結果を用いた研修効果の測定	(以下を試行) 「EBPM入門」研修受講者へのフォローアップ

手段と目標の因果関係に関する検討の結果

他の政策手段との比較での本事業の有効性については、事業の性質、予算規模と検証コストとの関係等を勘案し実施していないが、事業の有効性については、以下のとおり測定を試みている(習得した知識や技能が、政策担当者の企画立案や調査分析にどのように活かされたかについてまで把握することは難しいが、目標に対してある程度因果関係があると見込まれる)。

- 29年度に実施した計量分析研修におけるチェックテスト(初回講義が始まる前と最終回講義後に実施)の結果を用いて統計的仮説検定による効果測定を行ったところ、研修を通じ分析知識は有意に改善しているとの測定結果が得られた。
- 上記の試みに加え、29年度に実施した「EBPM入門」研修の受講者を対象に、研修が業務に役立つものであったか、業務に取り組む際の自身の意識や態度に変化があったかについて、フォローアップを行う予定である。

【1】課題把握・目標設定

・内閣府経済社会総合研究所経済研修所(以下「経済研修所」という。)においては、設置以来、経済・社会活動の調査分析など職務上必要とされる知識や技能の習得・向上を図るとともに、経済の重要問題についての分析能力を養うための経済研修等を実施している。

・「統計改革推進会議最終取りまとめ」(平成29年5月19日統計改革推進会議決定)で指摘されているとおり、現状や政策課題を迅速かつ的確に把握し、有効な対応策を選択し、その効果を検証する必要性が高まっており、証拠に基づく政策立案(EBPM)を推進していく必要がある。このため、EBPMの推進を担う人材の育成を進めることが急務である。

・EBPMの推進を担う人材を育成する観点からも、引き続き、取り組みを推進してゆく必要がある。

【2】政策手段の比較・検討

(政策レベルではないが、参考までに他の実施手段との比較について検討する。)

・職務上必要とされる知識や技能の習得を図る有効な手段として、職場における執務を通じた研修(OJT)が挙げられる。OJTは、一般的に、業務直結指導ができるため実践力を養う事ができる一方、それ以外の専門領域・理論性の指導は希薄になりやすいというデメリットが考えられる。

・経済・社会活動の調査分析に必要とされる基礎的な知識や技能の習得・向上にあたっては、経済理論・分析手法等の専門領域に係る知識を体系的に学べる業務外の研修(Off-JT)を実施することが効果的と考えられ、本事業においては、外部有識者を講師とした、集合形式の研修を実施している。

【3】手段と目標の因果関係の検討

(他の政策手段との比較での本事業の有効性については、事業の性質、予算規模と検証コストとの関係等を勘案し、実施困難と考える。但し、事業の有効性について、事項【4】に示すとおり、測定を試みている。)

【4】効果の測定

(1) 受講者アンケートに基づく受講者の評価についての検証【アウトカムの検証①】

研修プログラムについての受講者の評価を測定する指標として、講義内容に対する総合評価（満足度に関する設問に対する回答の5段階中上位2段階評価をつけた受講者の割合）を測定している。直近の実績を見ると、受講者の評価は過去の実績（政策評価書において設定した過去5年間の平均値）を上回っており、受講者の評価については一定の水準が保たれている。

< 講義内容に対する総合評価 >

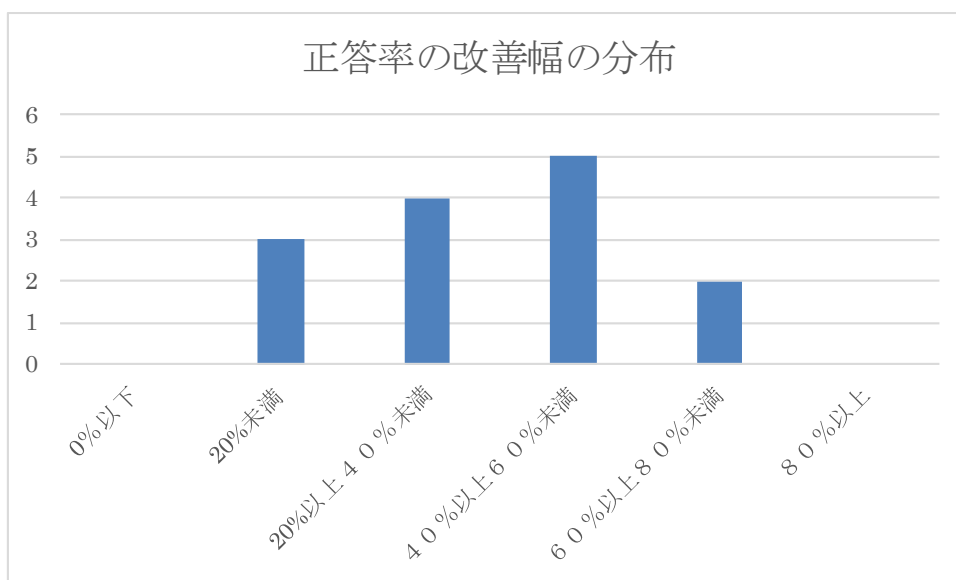
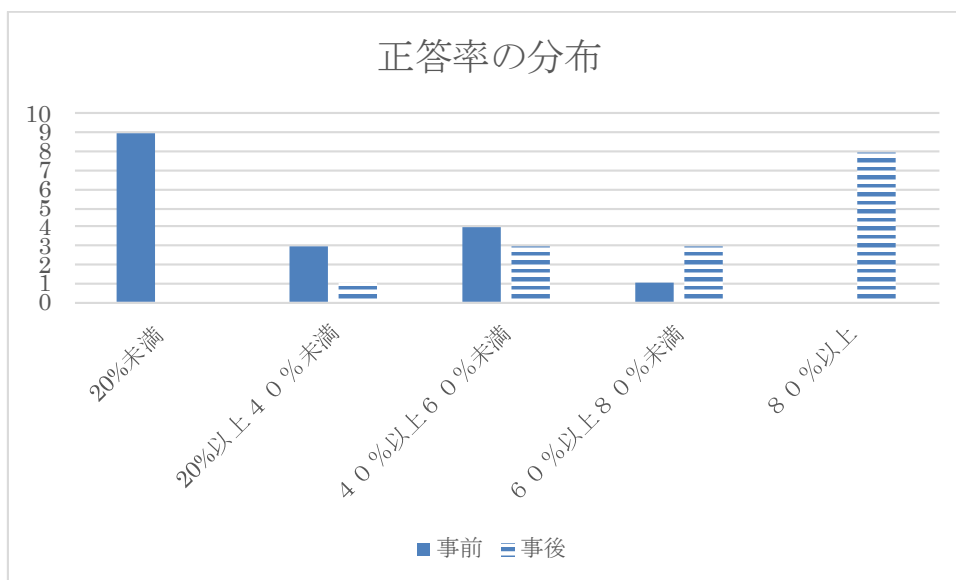
目標値： 20年度～24年度までの平均値：87%
（26年度設定目標値。25年度までの目標値は80%）
実績値（達成度）：29年度 87.8%（100.9%）
28年度 87.4%（100.5%）
27年度 88.2%（101.4%）

なお、受講者アンケートにおいては、講義内容やレベル、講義資料の内容、講師の説明、現在あるいは将来の業務への有益性等に関する設問（5段階評価とともに下位評価をつけた具体的理由）を設け、これらの回答内容や講師からのアドバイス等に基づく評価を行い、翌年度の研修プログラムの改善に役立てている。

（2）計量分析研修におけるチェックテストの結果に基づく知識の習得状況についての検証【アウトカムの検証②】

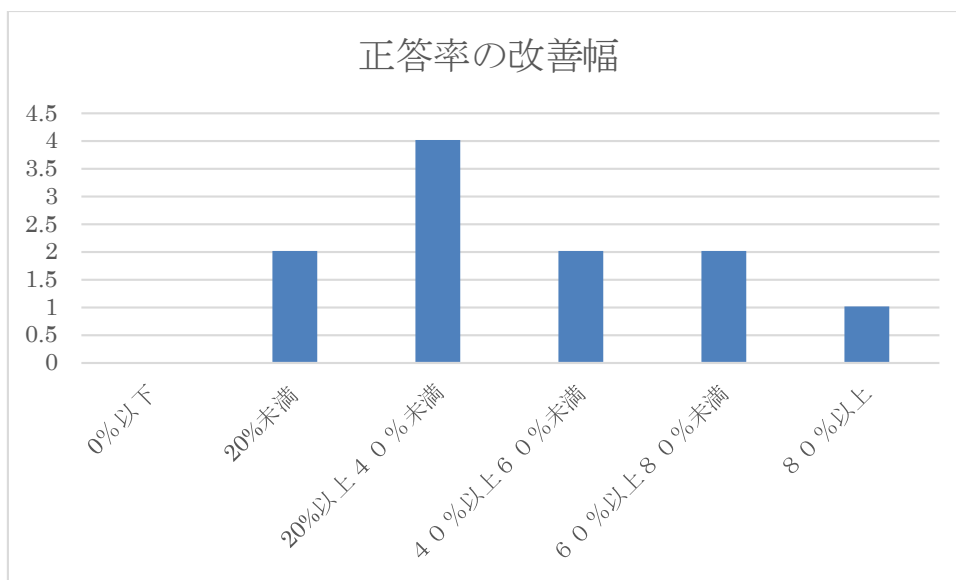
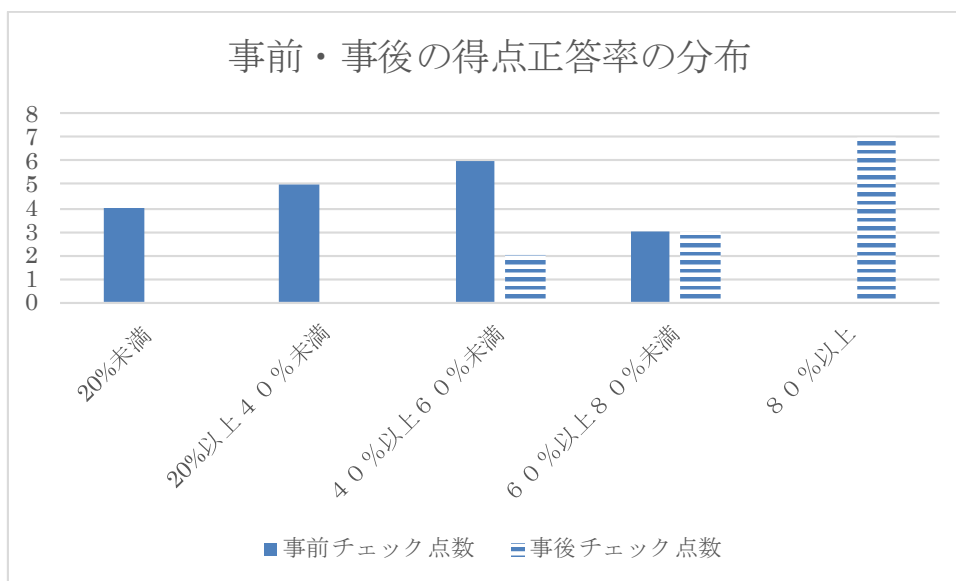
研修による知識や技能の習得状況について、29年度に実施した一部の研修について、以下の分析を試行している。

- ① 「パネル分析実習」チェックテスト結果を用いた研修効果の測定
 - ・ 研修の初回講義が始まる前と最終回講義後に実施されたチェックテスト（難易度は、ほぼ同等であるが、初回と最終回は異なる内容）の正答率の改善幅を確認した。



- 全ての受講生で得点が改善し、改善幅は 40%以上 60%未満となる受講生が最も多かった。
- 平均改善幅は約 37%、改善幅の標準偏差は 21%であり、この改善がゼロであるという仮説を立て t 検定を行ったところ、有意水準 1%以下で棄却できた。
- 受講の間、何も受講しなくても、正答率が改善するという事は考えがたいため、事前事後の比較で十分有意な結果を導いていると考えられる。

- ② 「時系列分析実習」チェックテスト結果を用いた研修効果の測定
- 研修の初回講義が始まる前と最終回講義後に実施されたチェックテスト（初回と最終回の設問は同じ内容）の正答率の改善幅を確認した。



- 全ての受講生で得点が改善し、改善幅は 20%以上 40%未満となる受講生が最も多かった。
- 平均改善幅は、42%、改善幅の標準偏差は 24.1%であり、改善がゼロであるという仮説を立て t 検定を行ったところ、有意水準 1%以下で棄却できた。
- 設問が同じであり、「パネル分析実習」と比較し、割り引いた評価が必

要であるが、研修を通じ、知識は有意に改善していると考えられる。

(3) 「EBPM 入門」研修受講者へのフォローアップ【インパクト検証(試行)】

研修の成果が政策担当者の企画立案や調査分析にどのように活かされたかについて定量的に把握することは難しく、現状では分析できていないが、29年度に実施した「EBPM 入門」の研修受講者に対し、研修が業務に役立つものであったか、業務に取り組む際の自身の意識や態度に変化があったか等について、フォローアップ調査を予定している(別添 参考1 参照)。

(4) その他

- ① 今秋実施予定の第2回「EBPM 入門」研修では、実践的なものとするため、研修事業をケース・スタディとして取り上げる予定(横浜市立大学 土屋教授にご指導していただく予定)。

具体的には、事業規模に見合った「EBPM ライト」(仮称)、理想像としての「EBPM 本格版」(仮称)を取り上げることについて、現在検討中。

- ② また、内閣府の他部局の事業についてもケース・スタディとして取り上げたく、その際には、EBPM 推進室が予定されている「EBPM 対象事業の検証等」「エビデンスの質を高めるための取組」を活用させていただくことも一案として考えている。

(別添 参考2 参照)

経済研修所運営に必要な経費 (内閣府 経済社会総合研究所 経済研修所)

内閣府及び他省庁の職員を対象とした経済研修・経済理論研修を実施することにより、経済・社会活動の調査分析など職務上必要とされる知識や技能の習得・向上を図ること及び経済の重要問題についての分析能力を養うことを目的とします。

○事業概要 (平成30年度研修計画より)

1. EBPM研修

(1) EBPM入門

日程	研修名	研修内容	講師	受講対象
10月～12月 (1.5×4日)	EBPM入門	EBPMの推進に必要な、政策の前提となる関連事実と政策課題の的確な把握、具体的政策の内容とその効果をつなぐ論理、政策効果とコストの関係の明示等、EBPMの基礎的知識を学ぶ。	横浜市立大学 土屋隆裕教授 黒木淳准教授	府内全部局 全省庁

2. 計量経済分析研修

(1) 計量経済分析入門

①5月15日～6月19日 ②9月中旬～10月下旬 (2.5h×6日/回)	計量経済分析入門	計量経済及び様々な業務分析に付随する統計に関する基礎的知識を学ぶ。Excel、Eviews等を使用しての実習を含む。 ・統計分析をすることの意味(客観的状況の把握、因果関係の定量的把握、政策効果・予測の定量的把握) ・記述統計(ヒストグラム、記述統計量、散布図、記述統計量) ・推測統計(確率論基礎、正規分布、標準平均の確率分布、区間推定・仮説検定) ・回帰分析(回帰モデルの推定、回帰分析の仮定、有意性検定、その他の検定、多重共線性とその対応、ダミー変数と構造変化) 等	成蹊大学 井上智夫教授	府内全部局 全省庁
--	----------	--	----------------	--------------

(2) 時系列分析コース: Eviewsを中心に使用

※受講者には、上記(1)を既受講もしくは同等の知識があることを求める。

10月下旬～12月上旬 (2.5h×5日)	時系列分析実習	時系列分析を中心とした計量経済分析をEviewsを中心に演習でシミュレーションごとに学ぶ。 ・時系列モデルの基礎(推計上の前提条件の整理、時間トレンドの影響と除去法、季節性の影響と除去法、単位根検定) ・系列相関と分散不均一性(系列相関の検出方法、分散不均一性の検出方法及び対応方法) ・一変量時系列の推定(時系列予測・季節調整等利用例紹介、AR,MA,ARMA過程の理論的特徴、AR,MA,ARMAモデルの推定) ・多変量時系列(VAR)の推定と分析(誘導形VARと構造VAR、推定、予測、分析) 等	成蹊大学 井上智夫教授	府内全部局 全省庁
--------------------------	---------	---	----------------	--------------

(3) パネル分析コース: Stataを中心に使用

※受講者には、上記(1)を既受講もしくは同等の知識があることを求める。

10月中旬～下旬 (3h×4日)	パネル分析実習	パネル分析上遭遇する各問題の本質、解決手法等について、Stataを中心に演習でシミュレーションごとに学ぶ。 ・パネル分析の基本等を含む計量経済分析の基礎、単回帰～重回帰 ・パネルデータの概要、固定効果、変量効果推定 ・政策分析に使える手法(差分の差分-反復クロスセクションデータによる) 等	東京大学 田中隆一教授	府内全部局 全省庁
---------------------	---------	--	----------------	--------------

3. 経済社会関連統計研修

6月6日～8日 (2.5h×2日+3h×1日)	季節調整法研修	季節調整の考え方・概要、X-12-ARIMAによる季節調整の手法等を学ぶ。PCを操作しての実習を含む。 (内閣府が採用しているX-12-ARIMAの理解を目指す)	日本銀行 有田帝馬企画役	府内全部局 全省庁
5月16日・18日 (1.5h×2日)	GDPを学ぶ	利用頻度が高いGDPに焦点を当て、主要系列の作成方法や使い方を学ぶ。	立教大学 榎本健准教授	府内全部局 全省庁
6月22日・26日 (1.5h×2日)	国民経済計算(SNA)ステップアップ	SNAの体系や経済財政分析に必要な系列の作成方法や使い方を学ぶ。 ※受講者には、上記「GDPを学ぶ」を既受講もしくは同等の知識があることを求める。		
10月～12月 (2h×4日)	アンケート調査実践セミナー	アンケート調査の設計及び分析に関する実践的知識を学ぶ。 ・調査票の作り方、標本調査の考え方、調査結果の読み方 等	横浜市立大学 土屋隆裕教授	府内全部局

4. 経済分析等に役立つExcel技能研修

①5月24日～6月20日 ②9月～10月 (2h×9日/回)	Excel基礎	初級(表・グラフ・データベース作成等、3日)、関数基本(3日)、関数応用(3日)から構成		
①5月23～6月4日 ②9月下旬～10月上旬 (2.5h×4日/回)	Excel(マクロ/VBA)初級	マクロ/VBA等の代表的オブジェクトをはじめとする基本操作の学習	専門業者	府内全部局 全省庁
①6月13日～6月27日 ②10月中旬～11月上旬 (2.5h×4日/回)	Excel(マクロ/VBA)応用	マクロ/VBAでの各オブジェクト操作等、一般的な統計データの加工方法、回帰分析等の学習 ※受講者には、上記初級を既受講もしくは同等の知識があることを求める。		